

平成 8 年 度

金沢大学附属図書館シンポジウム

新しい情報環境と大学図書館

金沢大学附属図書館

平成 9 年 2 月 発行

平成 8 年 度

金沢大学附属図書館シンポジウム

# 新しい情報環境と大学図書館

金沢大学附属図書館

平成 9 年 2 月 発行

はじめに

平成8年度は、本学旧教養部が改組され教養教育課程が新方式に移行した年であり、また、角間キャンパス移転の第Ⅱ期計画事業が開始された年でもあります。つまり、入れ物と中身の両方において、久しぶりに金沢大学が大きな変化を見た年といえるかと思えます。

このような状況の中で、附属図書館長に就任した私ですが、着任早々、本学の学術情報環境に関する現状と課題についてさまざまなレクを受けました。その中で、新規サービスを始めたばかりの図書館CD-ROMサーバについて説明を受ける機会がありました。

多少は自分でも動かせるようにと思い、操作もしてみたせいででしょうか、その後、東京で開かれた学会に出席の折り、近隣の本屋で、歴史物をコミックで描くCD-ROMを見かけたときは、さほどのためらいもなく買ってしまいました。大学に戻り、さっそく手元のパソコンでみたのですが、これがなかなか面白いし、面白みがわかったマナコで周りを見渡してみますと、私の属する経済学部の中でもCD-ROMになった資料が結構あることがわかりました。

それからは、ただ面白いというだけでなく、知識の伝達という観点からいっても、この媒体は従来の書物にないメリットがあることを実感した次第です。

さて、冒頭で述べた二つのウネリですが、図書館としてこれらにどう対応していくかを考えたとき、新方式の教育課程についていえば、新しいシラバスに即した図書を揃えることが図書館としての最初の大変な仕事であろうと考え、対応いたしました。

しかし、第Ⅱ期の総合移転計画については、端緒についたばかりでもあり全体像が茫洋としておりましたが、先ほどの経験も含め、いろいろと見聞するうち、「電子図書館」という視点を抜きにして、大学図書館の将来像は語れないこともわかってきました。

上述の私なりのコンテキストの中で、前任の小堀為雄先生から始まりました当館主催のシンポジウムを実施するに当たりまして、まず思い立ったのが、こうした新しい情報環境と大学図書館の関わり方について、当代最適任の方々からお知恵をいただきたいということでした。

この企画のもとで、我が国の学術情報システムの中核機関である学術情報センターの井上如副所長先生から、学術情報環境と大学図書館について基調講演をいただくことができました。

それから、本学と同規模大学の図書館長経験者として新潟大学小林俊一先生、電子図書館システムの研究者として光華女子大学谷口敏夫先生、本学の研究者・図書館利用者として人文社会科学系の岩本健良先生、自然科学系の長野勇先生から、それぞれの立場での講演をいただくことができ、その後はフロアーを含めて参加者一同でディスカッションを行いました。

当日の講演・ディスカッションは、講師の先生方の熱意のおかげで、実に内容のあるものとなり、ここで得た知見を私どもだけに留め置くことはできないと思っておりましたが、この度、ようやくその概要をまとめることができましたので、ここに広く大学関係者に御案内申し上げるところとなりました。

平成9年2月

金沢大学附属図書館長  
橋本哲哉